

光関連団体国際会議 (IOA) 参加報告

光関連団体の国際連携組織である IOA (International Optoelectronics Association) の 2016 年の年会が、Swiss Photonics 主催でスイスのチューリッヒにおいて、4 月 22 日および 23 日に開催された。これに当協会から小谷専務理事他 1 名が参加したので、以下に概要を報告する。

IOA は 1996 年に当協会がホストとなり ICOIA (International Coalition of Optoelectronic Industry Associations) として始まり、8 年前から IOA と名称を変えて、年会は今年で通算 21 回を数える。メンバーは発足時には 4 団体であったが、現在は 9 団体である。

今回の IOA 年会は、EPIC (European Photonics Industry Consortium) の Annual General Meeting に時期を合わせて開催された。参加国は、日本、台湾、米国、スイス、ドイツ、スコットランド、欧州 (EPIC) およびカナダ (Web 参加) の 8 か国 (計 10 名) で、今回 KAPID (韓国) は、不参加であった。なおオブザーバとして、シンガポール、中国および Photonics21 (欧州) からの出席もあった (計 6 名)。



IOA 会議参加メンバー

会議では、会場となった Hotel Radisson Blu (チューリッヒ空港) 内の会議室 (4 月 22 日) および Restaurant Au Premier (チューリッヒ中央駅) 内の会議室 (4 月 23 日) において、全参加メンバーによる「各国／地域の光産業動向と昨年の活動」、「各国／地域の技術ロードマップと技術開発の動向」などの報告と討議が行われた。オブザーバ参加団体からは、活動内容の説明があった。当協会からは、2015 年度の活動概要と光産業動向調査結果の詳細を平成 27 年度報告書に基づいて報告した。また、超低消費電力型光エレクトロニクス

実装システム技術開発に関する国家プロジェクトの概要と進捗について紹介した。さらに、光電子集積技術(Photonics and Electronics Integration Technologies)関連の技術ロードマップについても概説した。

OIDA(米国)からは、世界の光産業の動向について報告があり、昨年はディスプレイ・太陽電池およびLEDが先導していることが示された。また、米国の光産業については、ゆっくりではあるが着実に成長しており、太陽電池・LEDおよび情報通信分野が牽引していることが明らかになった。

PIDA(台湾)は、毎回、世界と台湾の光産業の生産額を発表しており、今回は2014年の実績、2015年の見込および2016~2018年の予想を示した。台湾における光産業の成長率は、全体では、2014年が-2%(金額:68B米ドル)、2015年が-12%(見込)と連続してマイナス成長となっている。しかし、2016年は0%成長と横ばいを予測している。2014年の成長率を製品分野別で見ると、イメージセンサ・太陽電池・レーザ応用などの分野が高い成長率を示していた。一方、全世界では、下図に示すように、2014年の成長率は5%で、今後も毎年6~8%程度の成長が見込まれている。

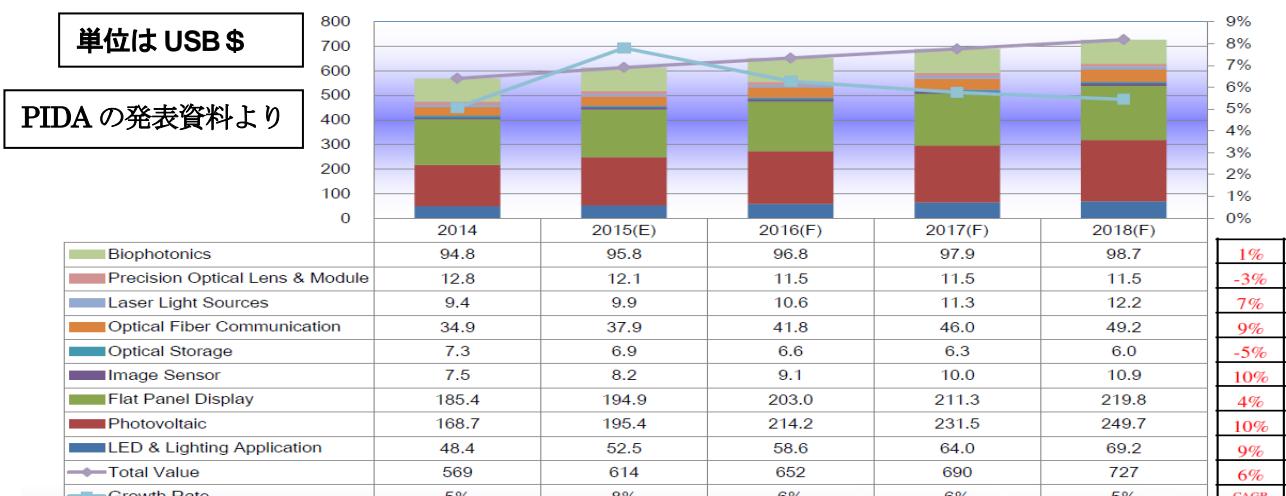
イスイスではレーザ加工分野が有名であり、2014年は全光産業の売上の28%を占めるまでになったが、売上額自体に大きな変動はない。太陽電池分野の市場急減に伴い、レーザ加工分野の相対比率が増大しているのである。

また4月22日(午前)には、EPIC Annual General MeetingがHotel Radisson Blu内の会議室で開催され、IOAメンバーも参加した(当協会からも、日本の光産業の動向について報告した)。ベンチャー企業の関係者を中心に200名程度の参加者があり、活発な意見交換が行われた。

なお、来年の年会は、OIDA(米国)の主催で、Photonics Westの開催に合わせ、2017年2月に米国・サンフランシスコで開催される予定である。

Worldwide photonics industry scale will reach 652B USD

The Scale of Worldwide Photonics Production Value 2014~2018



PIDAが発表した世界の光産業の動向